

## 令和元年 7 月 1 0 日開催 小平市地域公共交通会議 会議要録

### 1 日 時

令和元年 7 月 1 0 日 (水) 10 時 00 分から 11 時 30 分まで

### 2 場 所

小平市役所 6 階 601 会議室

### 3 出 席 者

小平市地域公共交通会議委員 13 人  
事務局 (都市開発部 公共交通課) 3 人  
(傍聴者 1 人)

### 4 会議次第

- 1 開会
- 2 平成 3 0 年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績状況報告
- 3 バスとタクシーのひろば in 小平 2 0 1 9 の実施報告
- 4 市内交通に関するアンケート調査結果について
- 5 公共交通の取組状況及び今後の方向性について
- 6 その他
- 7 閉会

### 5 配布資料

- ・平成 3 0 年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車状況 (資料 1-①)
- ・コミュニティバス (にじバス) 乗車実績表 (資料 1-②)
- ・コミュニティタクシー乗車人数の推移 (資料 1-③)
- ・バスとタクシーのひろば in 小平 2 0 1 9 実施報告 (資料 2-①)
- ・バスとタクシーのひろば in 小平 2 0 1 9 来場者アンケート集計結果 (資料 2-②)
- ・平成 3 0 年度ぶるべー号利用者アンケート集計結果 (資料 3-①)
- ・小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査結果 (資料 3-②)
- ・公共交通の取組状況及び今後の方向性について (資料 4)

### 6 会議内容

#### 1 開会

都市開発部長の挨拶、出席委員及び資料の確認、傍聴者への対応

#### 2 平成 3 0 年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績状況報告

事務局から資料 1-①～③に基づき説明

#### 委員

にじバスの乗車実績が平成 1 8 年度から平成 1 9 年度にかけて 1 4. 4%のマイナスとなっている理由は。

#### 事務局

運賃改定に伴い、その時期は一時的に利用が減少した。

#### 会長

100 円から 150 円に値上げした割には、減少幅が少ないと感じた。

会長

南西部地域コミュニティタクシー実証実験運行について、乗車人数がかなり少ないが具体的にどのような利用促進策を行っているのか。

事務局

市報や市ホームページへの掲載、チラシの配布など一通りの基本的な周知を行い、併せて地域の集まりや高齢者の集まりに出向き、個別に周知活動をしている。また、南西部地域でのアンケート調査を予定している。

会長

これまでのコミュニティタクシーの運行実績は、全国でもトップクラスの乗車がある。追走がでている分はコストの問題があるかもしれない。南西部地域については、抜本的に運行ルートを考え直す必要があると考える。

委員

南西部地域の運行ルートを決める段階で、希望のルートを通せなかったことが一番の問題。学校がある、危険がある、そういったところを公共交通を通して良いのかという警視庁からの指摘があった。安全対策をして、希望のルートを通れば良かったのだが実現しなかった。

### 3 バスとタクシーのひろば in 小平 2019 の実施報告 事務局から資料 2-①②に基づき説明

質疑なし

### 4 市内交通に関するアンケート調査結果について 事務局から資料 3-①②に基づき説明

委員

アンケート調査を実施するにあたっては、回答の選択肢に「普通」を入れるとそれを選択する人が多いのではないか。いずれは地域別の意向を分析していくのか。

事務局

今後、何らかの分析を行っていく。

委員

「小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査」(資料 3-②)における調査項目の「交通」とは公共交通のことか、道路交通を含まないということで良いのか。

事務局

本調査では、公共交通のことを指している。

会長

「ぶるべー号利用者アンケート集計結果」(資料 3-①)の中で、土日運行について運賃が上がっても運行を希望する回答数が多くあったが、土日のみ運賃を変えている例はあるか。

委員

全国的にもないと思う。

**会長**

私の知る限りでも土日のみ別運賃を設定している事例はないので、面白い聞き方だと思った。たいがいの場合、土日運行の要望はあるが、利用者は概ね6割ぐらいに減るところが多いので、実際にできるかどうかは微妙である。

5 公共交通の取組状況及び今後の方向性について

事務局から資料4に基づき説明

**委員**

市の公共交通に対する基本的な考え方の見直しに向けた検討のスケジュール案の中では、今年度中に検討する体制を決めるとあるが、この会議の場で決めるのか。

また、今年度は何回会議を開く予定か。

**事務局**

見直しに向けた体制づくりについては、本会議の意見を伺い参考にしながら、市で決めていくことを考えている。

本会議については、10月から11月頃に開催するほか、来年1月から3月までの間にもう一回開催する予定である。

**委員**

事務局が示された案にある、見直しを検討する3つの会議体（市民等、市、地域公共交通会議）は完全に独立しているのか、メンバーを少し重複させるのか。

**事務局**

地域公共交通会議の委員には、市民等で構成される会議の中で研修の講師として協力いただくなど、横のつながりや情報共有する関係づくりを考えていきたい。

**委員**

平成18年度の基本的な考え方での青梅街道幹線軸について、もう少し詳しく説明してほしい。

**事務局**

「小平市総合的な交通体系のあり方懇談会」において、青梅街道を幹線軸としてそれにつながる交通網を構築する方針が示されていた。しかし、実際に運行してみると、青梅街道よりも駅や日常生活の目的地につながる方がニーズがあることがわかり、現状、コミュニティタクシーも青梅街道ではなく、駅や病院につながる運行ルートになっている。

**委員**

公共交通の利用者数などの実績から、平成18年当初考えていた青梅街道幹線軸につながる考えとは乖離が生じたため、今後、現状に合わせて修正をするということか。

**会長**

補足すると、青梅街道幹線軸には小平市全体に関係する様々なニーズがあるが、それに全て応えるコミュニティ交通を確保することが難しい状況があったことから、当時、市内の地域を4つに分けて、それぞれの地域の代表の方が集まり検討を始めた。その結果、地域外の施設へのアクセスを考えた時に、青梅街道を介してアクセスができるようにという趣旨がまとまった。そのため、全て青梅街道につなげようとするものではなく、各地域の駅への移動ニーズを充足しつつ、それではカバーできないニーズについては、青梅街道を幹線軸にすることによって他の地域へ移動できるようにしようとするものである。

また当時は、青梅街道幹線軸は都営バスに加え、民間路線バスによって強化するとしていたが、その後の状況変化によって、都営バスも縮小の方向にきており、民間バスも余力がなくなってきた

ている中で、強化するという状況にはなっていない現実がある。そういった意味での見直しと考えていただきたい。

#### 会長

見直しに向けた検討体制をどうするかについては、難しいところがあり、この近辺だと東村山市や小金井市はこの地域公共交通会議が将来の交通のあり方を考える会議体を兼ねている。別の地域にも、もちろんある。どういう形が良いかはそれぞれの自治体の状況によって異なる。もし、委員の中で他の地域において、公共交通計画等に関わった経験があればご披露いただきたい。

#### 委員

見直しを検討する会議体の一つである市の部分で、関係する部署として福祉、産業、交通とあるが、事務局（公共交通課）も入っているのか。

市役所の中で部署が違ってしまうと、その部署特有の移動のニーズがある。横断的に連携して対応を図るとあるが可能なのか。市役所の中で会議体を作るかどうかによって変わってくるが、市の中での連携をどのようにしていくのか、交通のニーズや移動の広域的な視点をどこがメインで持つのかによっても変わると思うので、そこを確認した方が良い。他の自治体でも苦労している点である。市の中での意見統一の場や方向性をどうするのかを確認した方が良い。

#### 事務局

公共交通課も、その会議体の中には入ってくる。

現段階では、庁内での共有や合意形成が図られている状況ではないが、関係部署の課長級の職員による会議体を設置し、密に連携を図りながら協議、検討していくことが必要であり不可欠であると認識している。よって、全庁的な共通認識については、会議体の中でまとめていくことを想定している。

#### 会長

会議体というのは、市民等で構成される委員会（会議）ではなくて、市の中での会議体ということか。

#### 事務局

先程説明した会議体については、庁内関係部署で構成するもので、市の中のものである。

#### 委員

市がメインになって、その他の会議も市の意見をもとに検討することになると思うので、市の中での連携をしっかり図った方がより良いものになると思う。意志決定や共有の場をしっかり持っていただきたい。

#### 委員

東村山市の公共交通会議は、市民委員が4人位入っている。小平市でもこの地域公共交通会議を活かすのであれば、市民の方をオブザーバーや臨時委員として加えるということも考えられるのではないかな。

また、公共交通以外のファクターが入ってくると、意見がまとまりにくくなってしまわないかな。

#### 事務局

現状、本会議の委員に公募市民は含まれていないが、委員の意見を踏まえながら、来期以降、新たに公募市民を含めていくことも会議の設置要綱上、可能である。

#### 委員

見直しを検討する3つの会議体（市民等、市、地域公共交通会議）は、お互いに連携しながら進めるということだと思う。

現在、各地域に「コミュニティタクシーを考える会」という会議があり、市と連携して運営しているので、発展的に活用することや地域公共交通会議の中に市民を入れるのも手段の一つであると考えます。

また、市を仲介にして、「コミュニティタクシーを考える会」とやり取りすることも考えられる。一番話の通りやすい形が良いのではないかと。

#### 会長

各地域の「コミュニティタクシーを考える会」がしっかり機能しているので、今までの流れと齟齬がないようにして行かなければならない。

#### 委員

他市の地域公共交通会議は、年に1回会議を開催しているところもあれば月1回というところもある。会議の回数ではないが、考え方の見直しを検討するにあたっては、しっかりとした体制づくりをしてほしい。

#### 委員

見直しをした後の基本方針（考え方）の最終的な決議や承認は、市民等の会議（委員会）がやるのか、市議会なのか、地域公共交通会議なのか、会議で承認して議会で決議するのか。

#### 事務局

最終的には、市として策定することになるが、途中経過として、市民等の会議（委員会）がアイデアを出し、市の関係部署で構成する会議の中で検討しながら並行して、地域公共交通会議でもブラッシュアップしていく。市民等をはじめ、市と地域公共交通会議で検討を重ねながら、最終的には市で決定していく流れをイメージしている。

#### 委員

他の市区町村だと、地域公共交通会議がメインになって協議し、その他の会議体は分科会のような扱いのところが多い。今のところは、3者（市民等、市、地域公共交通会議）が独立しながらも相互に連携しながら進めていき、その中で市民等の会議（委員会）がベースとなるということか。これからそれを含めて検討し、意見をもらうということか。

#### 事務局

見直しに向けた検討体制について、現在のところ何も決まっている状況ではないので、本日の意見を踏まえながら検討し、今年度中に体制づくりをまとめていきたいと考えている。なお、議会に諮ることはない。

#### 委員

今の段階では、地域公共交通会議と市民等の会議（委員会）、市の中の調整会議と会議体は3つで、それぞれが横に連携を図りながら市がまとめていくという形を想定しているということか。

また、市民等の会議（委員会）に事業者が入るといったことはあるのか。

#### 事務局

地域の事業者であれば、市民等の会議に入ってもらえる可能性はある。

#### 会長

見直し体制のイメージ図をわかりやすくするには、事務局（公共交通課）は真ん中に持ってきて、それぞれの関係を付けるとわかりやすいのではないかと。

それでは、今日の意見を参考にしながら検討していただきたい。協議事項ではあるが、この場で結論を得るものではないので、以上にする。

## 6 その他

事務局から次回の開催について説明。

次回は10月から11月頃の開催で、議題については、南西部地域コミュニティタクシーの実証実験運行について上げる予定である。

### 委員

10月に消費税率の改定があるが、それに伴ってコミュニティバスやコミュニティタクシーの運賃を変える予定はあるか。

### 事務局

現時点では、変える予定はない。

### 会長

それでは本日予定していた議事は全て終わったので、以上で令和元年度第1回小平市地域公共交通会議を閉会とする。

長時間にわたり熱心なご議論をいただき、ありがとうございました。